

若者に対しての技術的・職業的教育並びにトレーニングは、雇用のアウトカムに小さな正の影響をもたらす



©Ness Kerson/madNESS Photography for AusAID
(CC BY-SA 4.0)

TVETの若者への介入は雇用可能性と雇用に対して小さな正の影響をもたらす

このレビューの目的は何か？

このキャンベルシステムティックレビューは、発展途上国における技術的・職業的教育が若者の雇用と雇用可能性のアウトカムに対して持っている影響について検証している。このレビューはラテンアメリカ、カリブ海諸国、ヨーロッパ、東アジア、南アジア、サハラ以南のアフリカにて行われた26の研究の知見を統合している。参加者は15歳から24歳である。10の研究は統計的なメタ分析のために使用された。

発展途上国の若者は、大人に比べて三倍の確率で個人的・社会的利益の制限されたインフォーマルな仕事につく。技術的・職業的教育とトレーニング (TVET) は、マージナルな状況にある若者に対して機会を拡大するための方法である。TVETの介入は、若者の雇用のアウトカムに対して小さいが正の影響をもたらす。

このレビューは何を調査したものか？

発展途上国の多くの若者は、キャリアの展開や経済成長への貢献について低い可能性しか持っていない低い質の仕事に従事している。これは、発展途上国と先進国との間に絶えず存在する労働生産性の明らかなギャップを考慮すると、発展途上国にとって特に重要な問題である。

経済成長と貧困に対して仕事とスキルをベースにした解決策が強調されていくにつれて、TVETには新たに焦点が当てられている。このレビューはこれらのTVETの介入が低所得国、中所得国の若者の雇用と雇用可能性のアウトカムに対して持っている効果と、いかなる要素がこれらの効果をモデレートしているかについて検証するものである。

含まれる研究は何か？

含まれる研究は、以下の要素を満たさねばならない。すなわち、(1)TVET介入についての研究であること、(2)低中所得国における15歳から24歳の若者へのアウトカムを報告しているものであること、(3)実験的ないし準実験的な研究デザインを用いていること。

このレビューには、全部で26の研究が含まれている。こうした研究はラテンアメリカ、カリブ海諸国、ヨーロッパ、東アジア、南アジア、サハラ以南アフリカの様々な国々における20の異なるTVET介入の効果を評価している。これらの研究は、10の中上位の所得を持つ国、すなわちアルゼンチン、ボスニアヘルツェゴビナ、ブラジル、チリ、中国、コロンビア、ドミニカ共和国、ラトビア、メキシコ、パナマ、ペルー、2つの中程度の所得を持つ国、すなわちインド、ブータン、そして1つの低所得の国、ケニアを含んでいる。



この研究がいかに最新のものか？

このレビューの著者は2012年9月までに発表された研究について調査した。また、このキャンベルシステマティックレビューは2013年9月に発表された。

キャンベルコラボレーションとは何か？

キャンベルコラボレーションとは、国際的であり、自発的であり、非営利の研究ネットワークで、システマティックレビューを出版している。我々は社会科学や行動科学のプログラムのエビデンスについて要約し、その質を評価している。我々の目的は、人々がよりよい選択をすること、よりより政治的決断をすることを助けることである。

この要約について

この要約は、Ada ChukwudozieとHoward White（キャンベルコラボレーション）によって準備されたものであり、キャンベルシステマティックレビュー2013：9「低所得国・中所得国における若者の雇用可能性と雇用を改善するための基礎的事項以降の技術的な、職業的な教育とトレーニング（TVET）の介入」に基づく。これは、Janice Tripney、Jorge Hombrados、Mark Newman、Kimberly Hovish、Chris Brown、Katarzyna Steinka-Fry、Eric Wilkeyによるシステマティックレビューである（DOI10.4073/csr.2013.9）。Tanya Kristiansen（キャンベルコラボレーション）がこの要約をデザインし直し編集しプロデュースした。この要約を作成するうえで、アメリカ研究基金による金銭的な支援があったことを明記しておく。

このレビューの主要な結果は何か？

全体を通して、TVETの介入は、雇用に関して測定されたアウトカムのうち1つを除くすべてについて、小さいが正の効果を持っていた。

しかし、研究間でかなりの違いがあった。これらの違いをもたらしている要素は、研究の質である。低い質の研究は有意で大きな効果を発見している。これによって、メタ分析における効果量はインフレーションを起こすため、それらは少なくとも中程度の質の研究に基づくべきである。

TVET介入のモデルのどれも、他のモデルに比べて優れてはおらず、検出された変数にモデレーター効果を検出する十分な統計的力学はなかった。

このレビューの知見が意味するものは何か？

このレビューはTVET介入が若者の雇用可能性と雇用について正の影響を持っていることを示すいくばくかのエビデンスを提供していた一方で、含まれる研究とレビューそれ自体の双方の限界に分析結果から直接的で強力な影響を導くことは避ける。

ゆえに、特定の、そして恐らくは高価である介入を奨励するエビデンスがないために、最も安価であり最も文化的に受け入れやすいモデルを採用することが最善のアプローチであろう。同時に、このレビューで観察された効果は概して小さく、ゆえに検出が難しかったがゆえに、将来のプログラムは厳密に評価されることが重要になり、また、いかにプログラムを向上しアウトカムに対して大きな影響を与えるかについて関係するそれぞれのステークホルダーが熟考したりすることが重要になる。エビデンススペースをより作り上げるため、発展途上国において現存するより多くのTVET介入が厳格に評価される必要があり、その成果は報告され、効率的に広められる必要がある。

